

2024年09月03日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【金利差を狙った外貨投資(外国為替取引)は、勧めることができない】

この7月、8月に、「円キャリー・トレードのアンワインド(解消)」が起こった、と考えます。

以下、一般論です。

++++
++++

正直なところ、金利差を狙っての外貨投資(外国為替取引)は、一概には、勧めることができない、と考えます。

いつの時代にも、金利差を狙って利益をもくろむ市場参加者は、たくさんいます。

特に、現在のマーケット(FX取引市場)にも、そういった市場参加者は、たくさんいます。

「円キャリー・トレード」がブームになっていたのですから、なおさらです。

こういった金利差享受を目的とした市場参加者は、常にいるでしょうし、過去にもいた、ということです。

人間の思いつくアイデアは、たいして変わらない、ということです。

しかし、

「円キャリー・トレードで外貨を買うのはやめた方が良い」

「円キャリー・トレードにはリスクがあります」

通貨間に、金利差があるということは、低い金利の通貨を売って、高い金利の通貨を買えば、その金利差を受け取れる、ということです。

現在の円金利は、ほとんど「ゼロ」ですから、外国為替市場で円を売って、何かしらの通貨を買えば、たいして金利差を享受できることになります。

日本は、「ゼロ金利政策」を長いこと採っていました。

今年になって、利上げを開始しましたが、それでも、まだ、ほとんど「ゼロ」と言っても良い水準です。

さまざまな外貨の金利と比べて、円金利の低さは群を抜いています。

別な言い方をすれば、現在の日本では、どんな外貨を買っても、金利差を受け取れる、ということなのです。

では、金利とは何でしょうか？

金利は、その通貨を発行している国の「インフレ率」です。

ある通貨の金利が高いということは、その国（その通貨を発行している国、または国々）のインフレ率が高い、ということです。

ですから、インフレ率が高い国、または国々——ユーロがありますから——の通貨価値は、いずれ下落することになります。

いずれ下落するのですが、その「いずれ」が、いつになるのかは、誰にもわかりません。

この「いずれ」にぶつかると、それまで金利差を享受していても、元本そのものの価値が減少する、ということになります。

つまり、金利差で稼いだ利益以上に、「為替差損（キャピタル・ロス）」で損をしてしまうことがあるのです。

しかし、外国為替市場には、トレンドがありますから、金利が高い通貨であっても、その価値が上昇することがあります。

ということは、金利差を享受しながら、「為替差益」をもダブルで享受できる場合（時期・期間・タイミング）がある、ということです。

個人的には、外国為替取引は、受け身の金利差を狙うのではなく、「キャピタル・ゲイン（為替差益）」を狙うこと、——つまり、トレンドを狙うこと——が原則だ、と考えています。

すでに述べた通りですが、いつ何時、「いずれ」がくるのかは、誰にもわかりません。

世界的に膨張している「円キャリー・トレード（円キャリー取引）」は、急落のリスクを孕んでいることを、認識するべきだ、と考えています。

そして、繰り返しますが、外国為替取引（FX取引）は、金利差を狙うのではなく、キャピ

タル・ゲインを狙うこと、——つまり、トレンドを狙うこと——が原則だ、と考えています。

金利目当ての外貨投資は、最終的には、損する可能性が高い。

そういう投資手法はすすめることができない。

だから、キャピタル・ゲインを狙うのです。

++++
++++

要約すると、以下の通りです。

●世界的に膨張している円キャリー・トレードは急落のリスクをはらんでいる。
そのことは、過去に何度も指摘されている。

●金利目当ての外貨投資は損する可能性が高い。
そういう投資手法はすすめることができない。

●金利目当ての外貨投資は、最終的には、損する可能性が高い。
そういう投資手法はすすめることができない。
だから、キャピタル・ゲインを狙う。

++++
++++

(2024年09月03日東京時間15:10記述)